



新世代の

師弟

&

姻戚関係



ボートレース界も70年が経過し4000番台の選手が中心となり、5000番台も360人を超えた。世代交代を繰り返すことによって、師弟関係のスタイルは様々になってきたし、親子・兄弟・夫婦の選手も再び増えてきた。今回は新世代の師弟や姻戚関係について、様々な角度から眺めていこう。





第1部

最近の「タテ」社会と「ヨコ」社会

変化する師弟関係

師匠を持たない若手が急増中

選手の関係性でベースとなるのは、やはり「土地」である。デビューする選手は、出身県を元に全国各地の18支部に所属する。そこでまず居住地に近いグループに所属、先輩選手と師弟関係を結ぶ。支部によって違いはあるが、どこかのグループに所属、師匠を持つことが義務付けられている支部もあった。

またその他の繋がりでは、養成所で苦楽を共にした同期会や、支部によっては「ヤング会」など若手同士によるグループも結成され、

情報交換の場になっている。

ただ、最近はそのような関係性に変化が見られる。それは「師匠を持たない若手」が急増していること。なぜそうなったのか。ひと言で言うのなら「そういう時代」に変化したと言わざるを得ない。誰か1人の下に付くのではなく、幅広い人たちとコミュニケーションを取るため、コンプライアンスやハラスメントに厳しい世の中になったことも影響しているだろう。2021年にデビューした藤原碧生は今年V3とブレイクしたが、

「師匠はいません」という。「吉田 拓郎さんとか、いろいろな先輩方に『おまえは性格的に誰か1人の下に付くんじゃなくて、いろんな人に見てもらえ』って言われたことがあって。僕も自分でそっちの方が合っているのかなって思いますが。つまりあっせんが一緒になかったその時の先輩が「師匠」というワケだ。

119期の黒野元基も師匠がいなかった1人。こちらはデビュー当時に、師匠を決め悩んでいたまま現在に至る。藤原同様、同じあつせんになった同支部の先輩にアドバイスをもらい、蓄積する。

その他にも師匠を持たない若手選手は多数いるが、藤原や黒野のように早くしてA1級に昇格した選手も多い。特定の師匠ではなく、「不特定多数」の教えの方が、今の時代には合っているということなのかもしれない。

師弟関係の解消も

そんな時代に見られる現象として「師弟の解消」がある。以前の師弟関係と言えば「親子同然」のような在り方で、よほどの理由がない限り、解消ということは考えられなかった。だが近年は「何か違った」など、弟子からの解消申し出もあるとか。そして解消があると当然、乗り換えも起こる。それもやはり時代と言わなければならないのか。以前よりも師弟関係自体がライトなものになってきているのだろう。



黒野元基



藤原碧生

新世代の

師弟 & 姻戚関係

拡大する「ヨコ」のつながり

峰 竜太
片岡雅裕
鈴谷一平

サーフィン

支部の師弟関係以外の繋がりという、共通の趣味や特技、戦術や戦法によるものが多い。ボート界のサーファーと言えば、峰竜太。香川支部の片岡雅裕、兵庫支部の鈴谷一平は支部も年齢も違えど、いつも行動を共にする。レースの合間を縫って宮崎へ遠征。道の駅きたごうで、峰が展開するアパレルブランド「ONE」のポップアップを行ったりも。

ポンコツ会

今、最も勢力を伸ばしていると言ってもいいのがポンコツ会。元々は西山貴浩、大庭元明、林恵祐と少数精鋭(?)だったが、徐々に拡大。福岡支部だけでなく、大阪から石野貴之、東京から齊藤仁、香川から森高一真が加入。今後、新メンバーを迎えて、さらに勢力は拡大する!?



大庭元明	齊藤 仁
林 恵祐	森高一真
西山貴浩	篠崎仁志
石野貴之	渡邊優美
倉持莉々	須藤博倫



釣り

選手は釣り好きが多い。その中でも“大物釣り”は山口剛。九州の海に遠征し、クエやマグロなど大物の他、イカ釣りなどかなりの腕前だという。永田啓二との繋がり、永田の弟子・米丸乃絵も“お世話”する面倒見の良さだ。山口の好調ぶりが永田や米丸、渡邊優美にも伝染!?

チルト3



チルト3度の元祖と言えば、阿波勝哉と澤大介だが、近年の第一人者は菅章哉。さらに堀之内紀代子や仲道大輔、そして新開航は初めてのチルト3で大外まくりを決めて優勝。まくりを連発する豪快なスタイルは、多くのファンを魅了する。

山口 剛	安河内将&健
永田啓二	米丸乃絵
渡邊優美	神里琴音
篠原晟弥	浦野 海
倉持莉々	須藤博倫

阿波勝哉	澤 大介
菅 章哉	土屋 南
仲道大輔	堀之内紀代子
新開 航	重富伸也

第1部

九州地区に見る 師弟相関図



2014年4月に持ちペラ制度が廃止され、現行のオーナーペラ制度へ変更された。そのことにより多くのグループが解散したりペラ小屋を畳んだりと、選手の結びつきが希薄になった。ただ、若手の技術向上のため、SGクラスの選手や若手選手が積極的に弟子を取ったり、逆に新人の方から「志願」という形で、師弟関係は継続された。ここではそんな師弟関係を、九州地区をモデルに紹介する。

【佐賀】
佐賀支部も居住地でグループは分かれる。佐賀(市)・唐津・武雄(嬉野)などなどだ。

その中でも一大勢力となりつつあるのが峰竜太率いる唐津軍団「ラグーンベース」。峰自身は松尾孝明(引退)の弟子だったが、若くして山田康二と上野真之介を弟子に持った。さらに安河内将や弟・健も軍団入り。そして定松勇樹・野田なづきの125期コンビが加入した。

定松は福岡出身ながら、峰に憧れ、峰に弟子入りするために佐賀支部に所属。そんな定松が師匠同様、今年のオールスターでSG初優勝を飾ったことは記憶に新しいところだ。

そして山田と上野も既に師匠として一人立ち。山田の下には常住蓮、上野真の下には末永和也と、3期連続の養成所キャンプがあった。そして唐津の中でも「呼子地区」ラインには、常住と幼なじみという小玉啓太、川辺郭人も連な



【長崎】
長崎支部も居住地により大村・佐世保・長崎などに分かれる。長崎は伝統的に師匠を必ずつけるという風習がある。メジャーなところでは飯山晃三の下に村上遼、中嶋誠一郎の下に石橋道友や下條雄太郎、その下條の下には吉田翔吾など。最近では宮本夏樹の下に北村寧々がついたことも話題になった。



新世代の

師弟 & 姻戚関係



【福岡】
選手数も多い福岡支部は、ペラグループも多数存在する。持ちペラ制度時やひと昔前は、縄張り意識が強く、情報はグループでのみ共有されていたこともあったという。だが瓜生正義が記念戦線でグループに捉われずに情報交換していったことで「記念を走る人は、そこでいろいろと話したりするので、あまりグループという意識はないかも」と話す面々が増えてきた。以前に比べると、グループという概念は薄れている印象を受ける。

それでもいまだに根強いものもある。福岡市西区を中心としたグループは藤丸光一や山一鉄也、大神康司らがライン。若手では篠原晟弥や川原愛未が同門だ。

福岡市東区は「我勝手隊」。白水勝也と篠崎元志・仁志、そして仁

志の下には先日蒲郡でデビュー初優勝を飾った田中宏樹がついている。

筑豊（飯塚）地区のグループは「ブラックダイヤモンド」。ベテランでは中村真や岩崎正哉、そして瓜生正義ら。瓜生の下には川野芽唯、その川野の下には大山千広。新開航も飯塚グループだ。

大宰府地区は「げってん会」。江夏満や永田啓二、前田将太らが在籍。大場広孝と結婚した魚谷香織は福岡支部に移籍、その魚谷の下に小池礼乃がついた。

その他、勢力は大きくないが、中間市グループの大庭元明や今井貴士、八幡西グループの西山貴浩、仲谷颯仁もメジャーな関係だ。



第2部

近頃また増加中!! 姻戚選手

表1 5000番以降の兄弟レーサー

支部	続柄	登番	選手名	続柄	登番	選手名
福岡	兄	4831	羽野 直也	弟	5008	羽野 諒
佐賀	兄	4734	安河内 将	弟	5026	安河内 健
長崎	兄	5048	眞鳥 康太	弟	5055	眞鳥 章太
徳島	姉	4878	西岡 育未	妹	5056	西岡 成美
大阪	兄	4908	上田 龍星	妹	5057	上田 紗奈
岡山	姉	4853	前原 哉	弟	5058	前原 大道
愛知	兄	4910	中村 泰平	弟	5061	中村 駿平
東京	兄	4875	大塚 康雅	弟	5063	大塚 雅治
愛知	兄	4983	前田 篤哉	次弟	5068	前田 滉
				長弟	5089	前田 翔
静岡	弟	4989	石原 翼	兄	5076	石原 光
福岡	兄	5028	原田才一郎	弟	5102	原田 雄次
福岡	妹	5144	中尾 彩香	姉	5192	中尾 優香
愛知	兄	5125	高井 雄基	弟	5211	高井 駿弥
愛媛	兄	4772	石丸 海渡	妹	5215	石丸 小楨
大阪	兄	5054	佐々木大河	弟	5260	佐々木海成
兵庫	長兄	5126	山下 大輝	次兄	5273	山下 拓巳
				弟	5333	山下 智己
東京	弟	5228	若林 樹蘭	兄	5285	若林 麗
埼玉	兄	5077	滝沢 峻	妹	5287	滝沢 織寧
香川	弟	5257	西丸侑太郎	兄	5299	西丸 敦基
福岡	兄	5160	藤森 陸斗	弟	5308	藤森 拓海
岡山	姉	4964	土屋 南	妹	5310	土屋 蘭
愛知	兄	5082	一色 凌雅	弟	5321	一色 颯輝
滋賀	兄	5115	香川 颯太	弟	5323	香川 陽太
香川	姉	5291	三嵩ころこ	妹	5326	三嵩さらら
香川	兄	5224	西岡 顕心	弟	5352	西岡 蒼志
東京	兄	5292	佐藤 右京	弟	5359	佐藤 世那

父・原田富士男(右)とオー一郎(左)、雄次(中)の兄弟



公営競技の世界では共通していることだが、ボートレース業界もまた、兄弟や夫婦・親子など、姻戚関係にある選手が多い。さらに最近では、一段と増加傾向にある。

兄弟選手は過去に約150組 夫婦選手は170組あまり

まず兄弟選手は、これまでに約150組、300人ほどが登録されてきた。表1は、5000番以降の兄弟レーサーだが、360人中28組56人と、その割合が高くなっている。そして以前と比べると、三兄弟や双子、それに女子選手との兄弟(姉妹・兄妹・姉弟)が増えた。既に安河内将・健兄弟や前田3兄弟のように、ともにA1級で活躍する兄弟も出てきている。

夫婦選手はさらに多く、これまでに170組余りが登録されてきた。離婚や再婚が多いので本誌ではあまり積極的に紹介していないが、ファンの間では話題になることも多いようだ。同期同士の結婚例が多いが、時にはかなりの年齢差カップルも誕生している。

先日のオールスターでも準優勝進出を果たした中田竜太と浜田亜理沙夫婦

安河内将(右)と健(左)の兄弟

表2 比較的最近結婚した夫婦選手の例

夫			妻		
登番	選手名	支部	登番	選手名	支部
4305	金子 拓矢	群馬	4825	倉持 莉々	東京
4886	入海 馨	岡山	4870	新田 有理	広島
4683	向井田直弥	広島	4882	瀧川 千依	埼玉
4573	佐藤 翼	埼玉	4964	土屋 南	岡山
5010	宇留田翔平	三重	5013	山下 夏鈴	三重
5068	前田 滉	愛知	5069	山崎小葉音	群馬
4033	伊藤 将吉	静岡	4843	深尾 巴恵	静岡
5115	香川 颯太	滋賀	5116	金子 七海	福井



師弟 & 姻戚関係



132期・滝沢織寧の養成所修了を祝福する両親



01年ダービーの際に掲げられた滝沢芳行を応援する横断幕

夫婦選手からも2世選手が続々 ファミリーの輪は広がっていく

親子選手はこれまで115組ほど生まれている。義父や義母まで含めるともっと多くの数となる。そして夫婦選手が親となり、その子供たちがボート選手としてデビューを果たすケースも増えている。下のファミリー家系図もそ



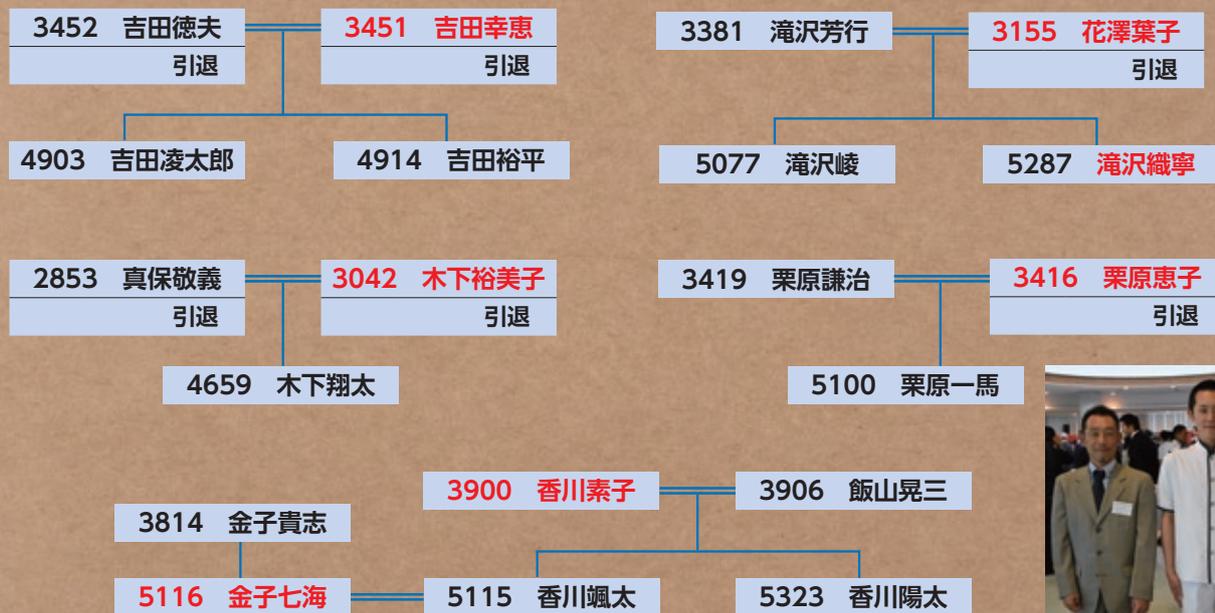
横西奏恵の娘、123期の山崎小葉音は同期の前田凜と結婚

例だ。2001年に常滑で滝沢芳行がダービーを勝った際、家族からの横断幕(左上写真)が大きな話題になったが、その時の「ママ」は元選手の花澤葉子で、息子の「りょう」(峻)は124期、「おりね」(織寧)は132期でデビューを果たした。

また香川素子の息子、香川颯太は金子貴志の娘である同期の七海と結婚。このようにファミリーの輪は、さらに大きく広がりを見せていく。

既に祖父と孫という例(黒明良光↓花夢など)もあり、3代続きのボート選手の誕生もそう遠い日ではないだろう。

こちらも増加中！ ボートレーサーファミリーの例



栗原謙治と125期・一馬の親子

第2部

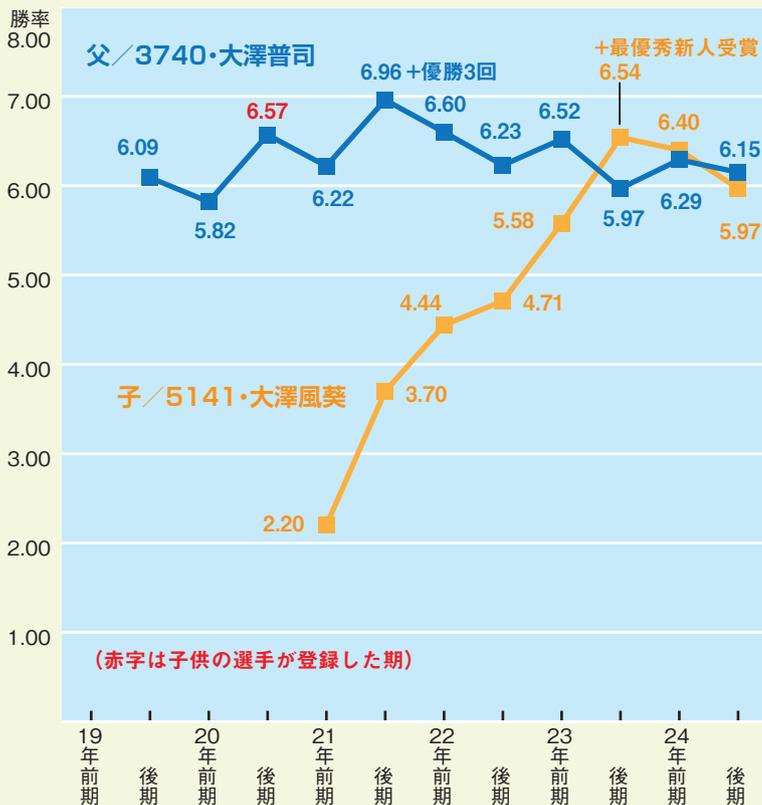
近頃また増加中!! 姻戚選手

大澤普司はA1級復帰、GII優出

群馬のA級選手として活躍していた父・普司だが、16年後期から9期連続でA2級止まりだった。しかし息子の風葵がデビューすると、即A1級復帰を果たす。風葵は急成長してオヤジ抜きを果たし、昨年の最優秀新人賞を受賞する。

普司も新期はA1級勝率に戻し、7月の江戸川GIIでは優出と、元気なところを見せている。

先日の江戸川MB大賞で優出した大澤普司



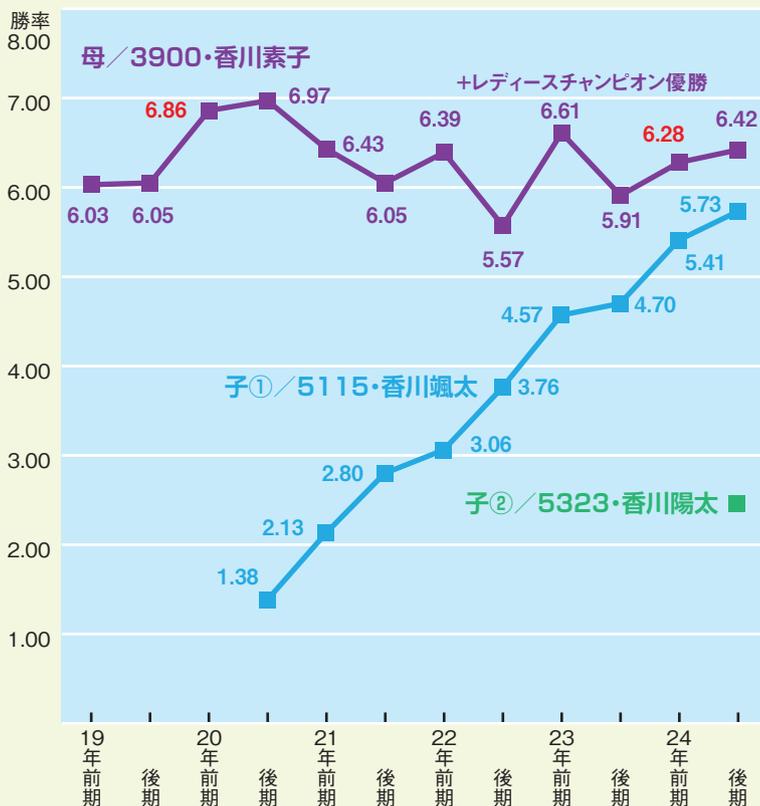
子供達にはまだ負けんよ!!
成績再上昇を見せる父母選手

レディースCも獲得!! 香川素子

19年は前後期ともA2級にとどまった香川素子だが、颯太のデビューが決まると、自身のキャリアハイ・タイとなる勝率を残してA1級にカムバック。そして22年8月には、レディースチャンピオンを勝って待望のGIタイトルを手にした。

颯太は確実に成長、一度も勝率を落とすことなく今期はA級入り。また133期で陽太がデビュー。こちらも養成所の成績は上位で、B1級あっせんデビュー。“びわこのビッグママ”こと香川素子の迫力ある戦いはまだまだ続く。

22年8月のレディースチャンピオンでトップを走る香川素子



師弟 & 姻戚関係

円熟味を増した石渡鉄兵

江戸川を代表する強豪として知られてきた石渡鉄兵だが、息子・翔一郎が一昨年11月にデビューすると、その後GIを

2勝挙げている。昨年2月の関東地区選までのGI4勝は江戸川3勝、平和島1勝だったが、先日6月には蒲郡69周年で、初めて東京以外の記念を手にした。今年暮れには50歳になるが、その取り口には円熟味を増している。

翔一郎の方は131期の修了記念王者として鳴り物入りでデビュー。その期待通りグングンと成績を上げてきている。今期5月以降の勝率は既に5点台に乗せており、A級も視界内に入ってきた。



6月には蒲郡周年を快勝した石渡鉄兵



131期の修了記念チャンプ・石渡翔一郎



出畑孝典もA1級に復帰

出畑孝典は10年前後にGI優勝やSG優出も経験してきたが、17年頃からA2級が定位置に。しかし昨秋、息子の孝成が133期生でデビューするとA1級へ復帰。今年には既に優勝3回と、明らかに活力を取り戻しつつある。



復調著しい出畑孝典



三嶋誠司、54歳にしてGIIを快勝!!

三嶋誠司は、95年後期にA級がA1級とA2級にクラス分けされる以前から約30年間A1級の勝率をキープしてきたが、23年前期にA2級に降級。しかし娘のころが昨年5月21日にデビューするとその翌22日、桐生でMB大賞(GII)を3コースからのまくり差で快勝。54歳にして、全グレード制覇とA1級復帰を合わせて果たした。



昨年5月に桐生でGIIを制した三嶋誠司



表3 133・134期の親子選手

父・母の選手		子どもの選手	
登番	選手名	登番	選手名
3536	一色 雅昭	5321	一色 颯輝
3541	三嶋 誠司	5326	三嶋さらら
3611	岩崎 芳美	5334	櫻葉 新心
3820	櫻葉 次郎		
4005	瀬川 公則	5336	瀬川 大地
3444	香月 大介	5338	香月 大輝
3480	樋江井慎祐	5340	樋江井 舞
3978	齊藤 仁	5351	齊藤 廉
4061	萩原 秀人	5355	萩原丈太郎



134期修了式の萩原親子

齊藤仁は8年ぶりのSG優出
昨秋修了の133期、今年春に修了した134期(登番5338以降)は、上記でも紹介した香川陽太や出畑孝成の他に、表3でも紹介しているように親子選手がとても多い。
134期では萩原丈太郎と齊藤廉が優秀な成績を残し、修了記念を走っている。それに刺激されたかのように、齊藤仁は先日のオーシャンカップで8年ぶりのSG優出と大暴れした。
さらにはこれからは、岩崎芳美や萩原秀人の活躍も期待できるのではないかと?